

留学育英生からのたより

スイス・ローザンヌ在住

第12回育英生 計良 龍成

黒田武志理事長様

いかがお過ごしでしょうか。私は今、大学の夏期講座に通って、フランス語を学んでおります。この秋からは博士課程に在籍することになりました。ローザンヌ大学は日本語の研究書がほとんどないのが残念ですが、研究をするのには良い環境なので満足しています。今、妻の里子と長女千尋がスイスに来ており、昨日は祝日だったので、みんなでシオン城に行って来ました。私が知らないうちに、娘は一人で歩くようになっていました。

それではまた、お便り致します。

1996年8月2日



をそろえるのにもう少し時間がかかりそうです。正式にすべての手続きが済みましたら、理事長、そして阿部先生、安藤先生に改めてご報告いたしたいと思っております。こちらの勉強も未だ終わらないうちから、結婚などというと、理事長に叱られてしまいそうですが、何としても研究と両立する覚悟でおります。

さて、私は10月26日から11月19日まで、彼女を連れて日本へ一時帰国することを計画いたしております。カザフスタン人の日本のビザ取得には2、3ヵ月かかるということで、すでにベルリンの日本領事館に申請をいたしました。その際、旅行の計画書を提出いたしました。しかし入国の日にちを遅らせる分には問題ないかと思われまます。また私どもも、どうしても10月26日に帰らなければならないということではございません。理事長のご旅行に合わせて、日程の変更をいたしたいと思っております。ただ、チケットの購入などの件もございしますので、理事長のご予定がお決まりになりましたら、どうぞお早めにお知らせして頂きたい存じます。

それでは、ドイツにてお目にかかれる日を楽しみにいたしております。どうぞお身体を大切になさって下さい。ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

敬具

1996年 8月17日



留学育英生からのたより

ドイツ・ライプチヒ在住

第9回育英生 佐藤 誠司

拝復 お手紙とお写真、どうも有難うございました。理事長、阿部先生と席を共にいたし、素晴らしい日本料理を頂いたことを、大変有り難く思い、また懐かしく思い出されます。

10月に渡独の予定でいらっしゃるとのこと、楽しみにお待ちしております。こちらで用意しなければならないことなどございましたら、何なりとお申し付け下さい。出来る限りのことをいたしたいと思っております。

さて、私事で誠に恐縮ではございますが、私は只今結婚の準備をいたしております。相手はカザフスタン人の、カルリガーシュ=コルマカノワ（24歳）という学生でございます。彼女はドイツ語学、ロシア語学、ジャーナリズム学を専攻しております。カザフスタンはしばらくソビエト連邦の一部でしたので、彼女はカザフ語のほかに、ロシア語も母国語としております。ドイツ語も堪能です。カザフスタンには、ロシア人、ドイツ人、朝鮮人などが、或時は捕虜として、或時はソビエト連邦の政策によって、移入してきたそうで、人口の半分が「外国人」なのだそうです。彼女は純粋なカザフスタン人で、アジア系です。国費留学をしており、国に帰ればエリートだと言っていますが、普段は少しおっちょこちょいのかわいい女性だと思います。知り合ったのは、もう3年前になりますが、真面目に付き合い始めたのは去年の暮れからです。将来的には二人で日本に暮らすことを計画いたしております。言葉、文化的な相違など、様々な問題を二人とも少し心配しておりますが、この絆を長く守っていこうと話しております。

結婚の手続きにつきましては、お互い外国人ということで、書類

留学育英生からのたより

インド・マドラス在住

第12回育英生 三上 俊弘

黒田武志老師様

拝啓 老師におかれましてはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

長らくのご無沙汰、申し訳ございませんでした。おかげさまで、かような決して健康的とはいえない国に暮らしながらも、猛暑の中、病魔に冒されることもなく、研究の方も、生来の無能ばかりは如何ともし難いものの、順調に進んでおります。これもひとえに、老師をはじめとする横浜善光寺留学僧育英会関係の皆様の御加護の賜物と感謝に堪えません。

さて、このたび、今年度の日本印度学仏教学会に発表参加を申し込みましたところ、さいわい学会当局の認めるところとなり、この9月5日6日の両日に立正大学に於いて開催されます同学会第47回学術大会の場で研究発表できることになりました。老師のご厚意のおかげでこのマドラスの地で学べたことを、いささかなりともまとまった形で日本の学界に公表し、同学の諸先生のご批判を仰ぐことができることは、まことに大きな喜びです。

予定では、8月末に当地を発ち、日本へ向かうつもりでおります。日本へ帰ること自体、わたくしには、実に二年半ぶりのこととなります。そこで、この機会に、奨学金贈呈式においては愚弟の出席で失礼してしまいましたことをお詫び申し上げるためにも、老師に直接お目にかかり、御礼と感謝の気持ちをお伝えしたく存じております。まず何よりこのたびの帰国のこと老師にお伝えしたく、筆をとった次第です。

末筆ながら、老師の御健康と横浜善光寺留学僧育英会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。 敬具

1996年8月10日

留学育英生からのたより

日本 在住

第12回育英生 ナーラダ・ラブガマ

拝啓

黒田武志先生はじめ、皆様お元気でしょうか。

このたびは私のために大切な奨学金を下さいまして本当にありがとうございました。

日本に留学して勉学に励もうと意気込んで参りましたが、スリランカと文化習慣のまったく違う中で生活しながら勉強していくことがどれほど大変なことか、身にしみて実感しております。多くの留学生在が同様に経済面で苦学しております。

私は日本に来てあてもなく困惑していた時、御寺の奨学金を幸運にも受けられるようになり、本当に助かりました。この奨学金がなかったら志途中で帰国していたかもしれません。御寺の慈悲に心から感謝しています。今後はなおいっそう精進して勉学に励むつもりです。私はもう一年日本で勉強するつもりです。世の中の困っている多くの学生にこの私の慈悲を与えて下さい。きっと仏教の発展にもつながっていくと思います。

これからも宜しくお導き下さいますようお願い申し上げます。

皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

敬具

1996年8月31日

留学育英生からのたより

イギリス・ケンブリッジ在住

第12回育英生 清水 晶子

黒田武志理事長先生

御無沙汰申し上げますが、理事長先生にはお変わりなくお過ごしのことと存じ上げます。

9月、10月とケンブリッジでは晴天が続き、暖かで穏やかな秋を楽しんでおりましたが、この2、3日、北海から冷たい風が吹き込んで、冬に向けて季節の足どりが一気に早まったように感じられます。

さて、私事になりますが留学のご報告を申し上げます。昨年10月社会人類学科のMphilコースに入学し、学期中は講義と平行して2週間毎に一本のエッセイ（小論文）を提出し、スーパーヴィジョン（個人指導）を受けました。その他にコースワークとして4月末に六千語の課題論文をまとめ、6月には各3時間の筆記試験を二科目受験し、8月末にジャイナ教の儀礼に関する一万語の論文を提出して全課程を終了しました。10月半ばに正式にDepartmentよりMphilコースに合格した旨通知を受け取りました。一年間を振り返ってみますと、いつも快く手助けしてくれたクラスメイトやカレッジの友人たちのお陰で、Mphilのコースを乗切ることができたと感謝致しております。

世界各国から集まった学生たちの中で、良き友に恵まれて学ぶことができたことの幸せを感じております。

この留学をご援助して下さいました横浜善光寺の育英会の皆様に心より御礼申し上げます。どうもありがとうございました。今後共どうぞ宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。

1996年11月1日

